

玄海原発・大飯原発の3・4号機の多重防護は偽装だ

－九電・関電は4重の防護壁を5重の防護壁と偽装し続けてきた

日本では、原発の安全神話を宣伝する為に、原発は5重の防護壁で保護されており、原子炉内の燃料棒に含まれる大量の放射性物質が大気中に大量に放散されることはあり得ないと説明されてきました。

原発は5重の防護壁とは、「燃料ペレット」、「燃料被覆管」、「原子炉圧力容器」、「原子炉格納容器」、「原子炉建屋」の5つです。

そして、日本の多くの原発は、原子炉格納容器は厚みのある鋼鉄製鋼板で制作され、「原子炉建屋」は鉄筋コンクリートで制作されてきました。

しかし、加圧水型原発の敦賀原発2号機は、格納容器をコンクリート製にして設計されたようです。

[注1]

この報告書によると、加圧水型原発の敦賀原発2号機（日本原電）の場合、格納容器がガスシール用薄型鉄板付きのプレストレス製コンクリートで設計されており、その外部に原子炉建屋が設計されています。敦賀原発2号機は116万kWの原子炉で、1987年2月17日に営業運転を開始しています。

（参照）敦賀発電所2号機 施設紹介 (http://npg.boj.go.jp/siryou/tsuruga_2.pdf)

それから4～5年程遅れて建設されたのが、大飯原発3・4号機で、さらに3～4年程遅れて建設されたのが、玄海原発3・4号機です。この4基に関しては、関西電力・九州電力は、大胆にも原子炉建屋の建設を中止し、格納容器だけの原発にしました。

（参照）原発なくす蔵 【資料】掲載 玄海原発主要断面図

http://npg.boj.go.jp/siryou/genkai_danmenzu.pdf

そして、九州電力の発表によれば、九電は、6.4mm厚みのガスシール用薄型鉄板を第4の壁、プレストレス製コンクリートの格納容器を第5の壁と称して、今日に至っていますが、これは多重防護の偽装としか、私には思われません。

現在、データ改ざんを行って問題になった神戸製鋼製のテンドンが玄海原発3・4号機と大飯原発3・4号機の格納容器に使用されていたことが問題となっています。その検討はもちろん必要ですが、九州電力（関西電力も共犯か）による多重防護の偽装は、住民の安全・安心を顧みない、はるかに巨大な問題と思われま

◆参考文献

[注1] 「コンクリート製原子炉格納容器の設計法」 コンクリート工学

https://www.jstage.jst.go.jp/article/coj1975/19/7/19_79/_pdf

（文責 中西正之）2017年12月